

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和7年6月分）

【製造業】

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数は前月比▲5.2%となった。ヒアリングでは、国内向けの自動車関連は少し伸びているとの声や、EV関連の新規案件の提案も受けており、現状を打破しようとする動きも出てきているとの声が聞かれる一方で、工作機械に関して「半導体需要が一段落」「ロボットも想定ほど需要がない」ことが原因で、今期決算は目標の7割ほどに留まったとの声が聞かれた。
- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、窯業・土石で上昇した。ヒアリングでは、物価高の影響を受けた衣料品の買い控えのため、特にファッション衣料の受注・生産が停滞しているとの声や、業界の景況感は一極化しているが、どちらかと言えば悪い方が多い印象との声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、5月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比3.4%増加となった。ヒアリングでは、設備の定期的な更新の中で、省力化や業務効率化のための設備導入を伴う案件も見られるとの声や、計画どおり省人化・無人化のために高額な設備を導入しても投資を回収できるだけの受注がないため、導入する設備のランクを下げる等、計画を再検討していかなければならないとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、5月の販売額は、全体で前年同月比2.8%増加となった。ヒアリングでは、生鮮食料品スーパー、物販、飲食部門ともに好調との声が聞かれる一方で、米をはじめ、食品や家庭用品の値上げで消費者マインドが冷え込んでおり、値段を見て断念するなど悪影響が出ているとの声が聞かれた。

【観光】

- 宿泊者数はインバウンド客の増加等により、前年同月と比較しプラスとなるなど、回復傾向にある。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 5月の制度融資実績は金額で10ヶ月連続で減少となった。資金需要について特段大きな動きは無く、運転・設備資金ともに底堅く例年通りとの声が聞かれた。

【雇用】

- 5月の有効求人倍率は1.43倍と前月比同率となった。ヒアリングでは、採用面については仕事の減少に併せて雇用を減らしているため、現状では人手が充足している状況との声や、新卒採用でホワイトカラーの職場には応募があるが、生産現場の応募は難しい状況との声が聞かれた。待遇面については、従業員満足度向上のために、ワークエンゲージメント評価を昨年度から実施しているとの声や、従業員に休みやすい環境を作るため、多能工化を進めており、これまで担当でなかった工程も実施できるように、ジョブローテーションを進めているとの声が聞かれた。

【景気動向】

4月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲1.8ポイント、5月の中小企業の景況感と同1.0ポイント上昇となった。